

研究テーマ：教科書を効果的に活用し、target sentence を  
定着させるための指導の工夫

所属 春野町立春野中学校  
氏名 川崎 善男  
R G J H 3

## 1. 研究の背景

春野中学校は、学級数 10、生徒数 328 名の中規模校である。1、3 年生を担当しているが、3 年生は C R T の結果からも分かるように、生徒間の学力差が大きく、全体の約 3 割の生徒が、基礎的な事柄が十分に身に付いていない。授業も活発で、授業評価システムでも 80% 以上の生徒が「分かった」「楽しかった」との評価をしてくれているが、少数ながら英語離れの生徒も出始めている。

## 2. リサーチクエスチョン

教科書を効果的に活用し、生徒たちに target sentence を定着させ、授業に積極的に参加させるための工夫

## 3. 予備調査 C R T、授業評価分析

## 4. 仮説

- (1) target sentence を使った自己表現
  - (2) A L T による target sentence を使った活動
- } これらを授業の中に組み込んでいく。

## 5. 計画の実践（2 学期の取り組み）

1 年生では、一学期が終わった時点で、クラスの中で 3～4 名出てきた。1、3 年生は 2 名の教員がクラスを分けて授業を行っており、情報交換も行っているが、よりわかりやすい授業の展開という観点から、英語部会の話し合いで、同じ単元が終わった後で、生徒による授業評価を行い、その結果を検討しようということになった。

また、英語教員（3 名）の授業をお互いに見せ合うということも確認した。

3 年生は、一学期に行った C R T 結果でも分かるように基礎的な事柄が十分に身に付いていない生徒が全体の 3 割近く、二学期も選択英語では、基礎コース、発展コースに分けて授業を行っている。

英語の自己表現の力を付けるには、基礎的な単語を身につける必要がある。読んで、書いて、聞けるようになることである。毎時間、選択英語では、授業の最初に重要単語 10 問テストを行っている。3 年生は体育祭も終わり、自分の進路を強く意識するようになり、学習に対する取り組み、授業の集中度も徐々に高まってき、単語テストにもまじめに取り組む生徒が増えてきた。

春野町では A L T が一人配置されており、木曜日を除き毎日 T T の授業を行っている。多くの生徒たちは毎日 A L T の授業の参加を希望するが、14 の英語のクラスがあり、一週間全然 A L T のこないクラスもある。T T では、私の授業ではリーディングの他は主に、A L T には target sentence を使った自己表現ができる活動をやらせてもらっている。生徒たちは、非常に活発に反応する。

## 6．実践の結果と検証

1，3年生とも定期的に単語テストを授業の最初に実施してきたことはよかった。特に3年生は、基礎的な言語を読み書きできるようになった生徒が増えてきたように思える。

自己表現能力の向上という点においては、生徒たちに成就感・達成感を与えるようなタスク（自己表現活動、コミュニケーション活動）を取り入れると、実に生き生きと授業に参加する生徒が増えてき、その後その活動に肯定的評価を入れるとさらに効果が大きくなる。生徒による授業評価の感想の中でも、ALTにもっと来て欲しい。こんな活動をもっとやって欲しいという要望が多くなった。

特に1年生では、ALTによるゲームを通しての自己表現活動を望む生徒が増えてきた。母国語以外の言葉で、生活・習慣・文化の異なる人々とコミュニケーションができるということは、それ自体すごく魅力的なことで、人生楽しくなってくるし、またこういう活動を通じて、物の見方、考え方も広がり、深まりを見せてくるわけで、これが外国語学習の大きな動機のひとつである。したがって、こういう場面を授業の中で、限られた時間の中で、どのように与えるかによって、生徒の意欲、やる気も出てくるように思える。

## 7．成果と今後の課題

成果としては、まだはっきりと目に見える形では現れてはこないが、ALTによる活動の中で、自分の考えを簡単な英語で伝えることができた喜びとか達成感が、英語学習への大きな動機づけになった生徒が、特に1年生に多いように思う。

こういう活動の入った授業を続けて欲しいという生徒の中に、定着度をはかる定期テストではいい結果を出せない生徒も少なからずいる。

学力の定着という面では、教師主体の講義式の教え込むという授業も必要となってくる。本来、外国語学習は楽しいものであるが、毎日の積み重ねも必要なしんどさを伴うものである。このしんどさと楽しさのバランスを取りながら、どう授業を組み立てていくか、これも大きな課題のひとつである。

本年度は、3年生が1クラスを2つに分けた小集団授業を行っている。

小集団になると、クラスの生徒によく目が届く、授業内容の浸透度も違ってくる。

また、授業の中での個別指導もやりやすくなってくるし、全体的に教育効果は高い。

来年度は、1年生からの導入を検討中である。

低学力の生徒については、個々の指導が必要であるが、十分な時間が取れていない。

生徒指導上の問題も関わってくる。学校生活で、いくつかの問題（ノート・宿題の不提出、学用品の忘れ物も含めて）が出てきた生徒は、家庭生活でも厳しい側面を抱えている場合も数ある。

基本的な生活習慣・学習習慣の指導には、家庭との連携同様に、地域との連携、協力も重要である。